

# ☆ 我 無 世 便 り



清田てつや後援会報  
発行：清田てつや後援会

佐伯市議会議員 清田 哲也 議会報告

皆さん、こんにちは！！ 夏休みも近づき、子どもたちはうきうきする季節になりました。逆にお母さん方は、夏休み中のお昼ごはんの献立でドキドキしているんじゃないでしょうか (>\_<) 給食ってホントありがたいと思います。未納問題にも取り組んでいますが、未納者って割合的にホント少数なんですよ！！ 少数の未納者のせいで多くの保護者が迷惑を被っています。そういう意味でも、子ども手当の使われ方は政治が関与して、もう一度問われるべきだと思います！！ 僕は、鶴岡商工振興会の皆さんと、長崎に研修旅行に行かせてもらいました。軍艦島に上陸することができました！！年間100日くらいしか上陸することができないのに、鶴岡の皆さんは、ホント普段の行いが素晴らしい方ばかりなんです。軍艦島は世界遺産登録を目指しています。しかしながら、過去の負の歴史についてもっと陽を当てなければ、世界遺産に登録する意味はないような気がします。中国や韓国の方が強制労働に従事させられ、島内の生活の中でも虐げられていたそうです。正、負両面の歴史を伝えることこそが世界遺産に登録する意味だと思いました。

この他にも、行事が目白押しの5、6月でしたが、今回も6月定例会において一般質問をさせてもらいました！！今回は、佐伯市全体の大きな問題に関して、行いました。キーワードは、“人口減少”です。少子高齢化と関連ですが、いかに、今の子供たちにいい形で佐伯を手渡すかを、皆さんと一緒に考えられたらと思います。最後まで、じっくり読んでください。！(〇)！

佐伯市全体の人口は5年間で4449人減少しています。佐伯、弥生地区以外の減少率は-9～-13%で推移しており、佐伯市の人口動態の傾向として、少子高齢化が進みながらも、周辺部から、佐伯、弥生地域に引っ越してくる世帯が多いという事がいえます。ちなみに、人口減少率、佐伯は-3.31%、弥生は-0.17%です。少子高齢化が進み、なおかつ、人口移動により周辺部は過疎化が加速しているという現状です。皆さん、年金の話を思い出してください。将来の人口予測をいい加減にしたばかりに、とんでもないことになりましたよね。保険料を納める現役世代より受給者が増えているので、現役世代が納める保険料は自分達が受給するための原資には充当されません。人口予測の甘さが、制度そのものの破たんの原因となった最も、顕著な例です。私たちが暮らす佐伯市が行う施策においても同様です。人口動態に細心の注意を払わなければ、制度そのものが破たんしますし、期待した効果を得るところか、財政に負担をかけるだけの結果になり、その負担は、結局市民にまわってきます。佐伯市は1715戸の市営住宅を所有しています。維持管理に要する費用は1年に4000万円、10年間では4億円を若干上回る見込みです。現在は入居者の家賃で維持管理費のほとんどを賄っていますが、今後、人口減少により、需要戸数が減っていくことが予想されます。そうすると、家賃収入が減りま

ますので、現在と同様の戸数を維持していくには一般財源から維持管理費に充当しなくてはなりません。他のものに使っていたお金が住宅の維持管理費のために使えなくなってしまう。使用料で維持管理費を賄えなくなる前に、入居者のいない住宅の廃止や、小規模の修繕を計画的に行い、大きな出費につながる大規模修繕を未然に防ぐ工夫、建て替えに備えた毎年の積み立てなどが求められます。現在、佐伯市は公営住宅ストック総合改善事業において計画的な維持管理を行っています。次は道路にかかる橋の維持管理についてです。僕もびっくりしたんですけど、**佐伯市が管理する橋は931橋もあるんです！！**意外と多いと思いませんか？丁度、この質問を行う2日前の新聞に、大分県が「橋梁長寿命化維持管理計画」を制定したとの記事が掲載されました。全ての橋を調査し、予防保全の観点で、傷む前に予防措置をすることで橋の寿命を延ばすというものです。県の試算によりますと、補修をせずに、寿命がきた橋を新設していくと、**50年で930億円かかり、補修をして寿命を延ばせば500億円程度で済む**そうです。市も、同様の長寿命化計画を来年度策定し、その計画書に基づき、優先度の高いものから計画的に補修工事をしていくとのことでした。僕が、**1点付け加えたのは、橋梁補修は特殊な工事であるが、安易に市外の橋梁メーカーに頼らず、佐伯市内にも橋梁補修工事の実績を積んだ会社があるので、市内業者での発注を要望**しました。次にケーブルテレビ事業です。鶴岡をはじめ旧市内のみなさんは、(株)ケーブルテレビ佐伯が所有する設備で視聴しています。つまり(株)ケーブルテレビ佐伯と契約することでテレビを見ています。CTSエリアと呼ばれる地域です。一方、青山、海崎と旧郡部の地域は行政エリアと呼ばれる地域で佐伯市が所有する設備でテレビを見ています。市直営のケーブルテレビ事業ですので行政エリアといいます。CTSエリアの皆さんには、デジタル化に伴う設備投資の増加による料金改定の知らせがきました。今後もサービスを提供していくために700円を1365円に値上げするという(株)ケーブルテレビ佐伯の判断です。CTSエリアよりも多くの設備を維持管理しなければならない行政エリアも、700円では一般財源からの持ち出しが増える一方で、市財政に深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。他市は、臼杵1500円、竹田1200円、日田2000円という料金設定です。この値段でも将来的に十分維持管理できていくかどうかギリギリの線なのです。使用料は安いに越したことはありませんが、結局、そのツケを次世代にまわすだけなのです。住宅、橋に比べ将来の維持管理費に対する計画がなされていないと言わざるを得ません。このように、同じ市役所でも、担当課によって危機意識が全く異なります。利用者負担の増加を決断することは市民の批判的にはなりますが、内情をしっかりと説明し、**現在と未来の世代の負担格差を無くす**ことが、一番大切な仕事だと思います。**少しでもいい形で、この佐伯市を、今の子供たちに引き継いであげたいものです！！**